

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmmiT NEWS LETTER



【テーマ】

「～魅力・強みの再発見～

“日大”をどう活かす？」

今年度は、日本大学の「魅力・強み」に焦点をあて総勢16学部から、大学の強みを活かして学びを深めるためにどうすればいいか、大学がどのように改善すればもっと良い教育・学修活動ができるかという意見を、日本大学の教育理念である「自主創造」を基点として集めました。

他学部で行われている「その授業良いね！」という取り組みを自分の学部でも取り入れるための学部提案書をまとめました。

【目次】

テーマ・活動内容	・・・1
セッション1について	・・・2
セッション2について	・・・3
セッション3について	・・・4
学部提案書	・・・5～13

【活動内容】

9月29日の開催に向け、学生スタッフの活動は5月から始まり、総勢42名で事前準備を行いました。

事前準備では市ヶ谷にある大学本部での対面ミーティングに加え、20回以上のファシリテーションスキルを磨くオンライン研修を行いました。

オンライン研修では、当日の参加者の方々と一緒に「日大の魅力・強み」を再発見できるよう、参加者が意見を出しやすい話し方や場の雰囲気づくりにポイントを絞り実施しました。当日参加した方からは「日大という総合大学を活かす取り組みを考えることができた」という感想をもらうことができました。



CHAmmiTは
今年で12回目！

編集:

令和6年度 日本大学学生FD CHAmmiT 学生スタッフ

発行: 日本大学 FD推進センター

お問い合わせ: 日本大学本部学務部学務課

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24

E-mail: adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp

ホームページ: <http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/>

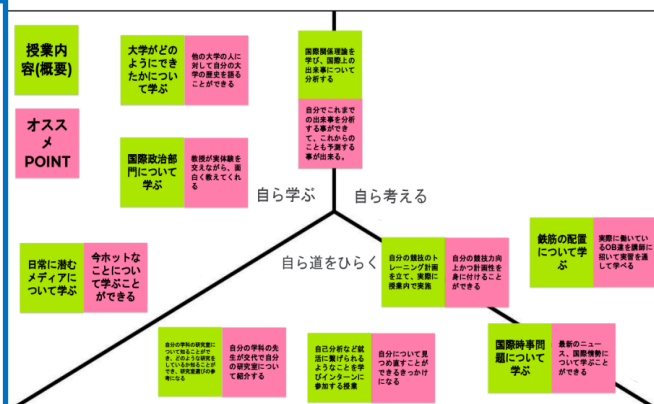
セッション1

他の人にオススメしたい授業

セッション1では、他学部の学生と「自分が受けた中でオススメしたい授業」について話し合い、その授業が日本大学の教育理念「自主創造」を支える3つの構成要素(自ら学ぶ、自ら考える、自ら道をひらく)のどれに関連するかを考えました。セッションの最後には、自分の学部提案したい授業について意見を付箋に書くようにし、セッション3での学部提案書作成に活用しました。

①意見出し/共有

右図のように、緑の付箋には授業概要、赤の付箋にはおすすめポイントを書き出し、他の参加者に共有をしてもらいました。ただ自分が面白い、楽しかったと思った授業について意見を出すだけでなく、日本大学の教育理念でもある「自主創造」を支える3つの構成要素のどれに当てはまるのかも考えてもらいました。



②提案授業の書き出し/発表

①で行われた意見共有で他の参加者(他学部の人)から聞いたオススメの授業をもとに各自で所属している学部提案する授業について、付箋に意見を書き出してもらいました。その後、参加者が1人ずつ、他の人の意見の中で良いと思った意見を発表していただきました。

実際に発表された意見としては…

データの分析を行い、結果等を発表する授業において多様な視点からの分析が可能となるようなサポートをしてほしい。(学んだきた多様な理論を活用し学習効果を高めるため。)

同学部他学科/他学部と協力して一つのプロジェクトを進めるような講義を開いてほしい。(足りない視点を補い合い、多角的な視点を持つ力を養い、知識を深めるため。)といったようなものが挙げられます。



セッション2

自分が受けた授業で見つけた改善すべき点

セッション2では、セッション1で他の人にオススメしたい授業について共有してもらった上で、大学全体での課題と学部に見るべき授業は、どのようなものかということと同じ学部に関連する学生と教職員間で考えました。その後、授業の良くない点と改善点の意見出しを行い、意見共有をし、発表してもらい、優先度の高いものから順位付けをしていきました。

理想

- ・講義型だけでなく、実際に働いている人からの話や経験を聞ける授業があってほしい
- ・到達度確認テストの結果を開示してほしい
- ・授業の前にその授業の概要や必要な知識などの事前プリントをまとめて配布してほしい
- ・学生自身が企画発案できる授業を設けてほしい
- ・他学部の人と交流できる授業があってほしい

現実

- ・講義型の授業が多く、学生が飽きてしまっている
- ・テスト結果が開示されないため、復習がづらい
- ・授業に対しての事前準備ができない
- ・座学が中心の授業が多い
- ・受け身の姿勢になりやすい
- ・総合大学の利点を生かす事が出来ていない



セッション3

私たちが未来に活かすためには

セッション3では、セッション2で同じ学部の学生で話し合った改善案と、セッション1で行った他学部との話し合いで出てきた意見について、共有を行い、それらを「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」「その他」に分類しました。そして、グルーピングした意見内容を元に、私たちが未来に活かしていくための授業の形について、具体的な提案を行いました。また、各グループにおいて、「学部に望む授業」と「全学部に関わる項目」の2点に分け、学部提案書を作成してもらいました。

【学部に望む授業】

- ・教員と学生が対話でき、学生から教員に対して質問などがしやすい学修環境を整えてほしい
- ・授業で行った内容の理解度を測るための小テストを実施してほしい
- ・ニュースや新聞など最新の情報を授業に取り入れてほしい
- ・知識をアウトプットする機会を設けてほしい
- ・他学部他学科と連携した授業を行ってほしい
など、多くの意見を集めました。

【全学部に関わる項目】

- ・試験や提出した課題に対しての適切なフィードバックがあるように、同じ授業を行っている教員間で評価方法を統一してほしい
- ・学部学科関係なく横断できる授業形態を増やしてほしい
- ・教科書やパワーポイントのスライドを読むだけの授業を行わないでほしい
- ・同講義における評価方法や講義内容を統一してほしい
- ・シラバスに沿って一貫した授業内容で授業を行ってほしい
など、多くの意見を集めました。

これらの学部提案書を元に、各学部において学生・教員・職員の三者で協議し、学修環境の改善を図っていきます！



学部提案書

(法学部)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・対面講義でもクラスルームなどを使用し、フィードバックを行うことで、意見共有・意見交換を行えるようにしてほしい →講師から学生へと一方的な講義が展開されやすいと感じているため ・IT教育を充実してほしい →小中高生などはIT教育を学んでいるが、大学では行われていないと感じているため、IT教育が行えるよう環境を整えてほしいから ・人気講義をオンデマンドと対面のハイブリット化を行うことで、履修制限を減らし、各々が学びたい内容について進んで学べる環境を整えてほしい →人気講義は抽選で外れてしまうことが多く、自ら学びたい講義でも学ぶことができないと感じるため ・講義内容をこれから先どのように活かすことができるのか、多くの事例と絡めながら講義を行ってほしい →一学んでいても実際に活用することができるのかと疑問に感じてしまうことがあるため	・講義内容をこれから先どのように活かすことができるのか、多くの事例と絡めながら講義を行ってほしい →一学んでいても実際に活用することができるのかと疑問に感じてしまうことがあるため
自ら考える	・講義内の事例について話し合う時間を設けてほしい →学生が主体となって行う参加型の講義が少なく感じるため ・裁判所に行くことや模擬法廷場を使用しながらの模擬裁判を行う機会を増やしてほしい →実際に体験することで、座学で学ぶ時とは異なるものの視点や、新たな考え方を学べる機会が現段階では少なく感じるため	
自ら道をひらく	・複数回講義を開講し、学部・学科関係なく横断できる授業形態を増やしてほしい →学部・学科関係なく関心を持つ講義を受講することにより、自ら学ぶ機会が増え、学んだことが将来の糧になると考えるため ・就活を意図した講義が少ないため、1・2学年から就活の基盤となる講義を増やしてほしい →実際に働いている方に話を聞くことや、働いている姿を見ることが、多種多様な業界に触れる機会が増え、将来のビジョンを早くから立てることができるため ・少人数制の講義形態の導入を行ってほしい →少人数制の講義形態を導入することにより、直接講師と話し合う機会が増え、コミュニケーションが増加することで疑問点を解消することができるなど、大人数制の講義形態より学びを深めることができると考えるため	・複数回講義を開講し、学部・学科関係なく横断できる授業形態を増やしてほしい →学部・学科関係なく関心を持つ講義を受講することにより、自ら学ぶ機会が増え、学んだことが将来の糧になると考えるため
その他	・同講義における評価方法や講義内容の統一を行ってほしい →必修科目内で講義形態の幅があることから、同講義を受講している学生同士で評価にバラツキがあると思われるため	・同講義における評価方法や講義内容の統一を行ってほしい →必修科目内で講義形態の幅があることから、同講義を受講している学生同士で評価にバラツキがあると思われるため

学部提案書

(文理学部①)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・教科書以外のプラスαの内容を含んだスライドを活用する授業 理由：教科書からだけでなく幅広い学びを得たいから。 ・授業の最終目標が明確になっている授業 理由：授業の最終目標が明確になっている授業 授業の最初の授業で目的を明確にしてほしい、その目的を遂げるための授業形態にしてほしい(一貫性をもってほしい) 理由：目的をもって授業に臨んだほうがモチベーションが持続するため	・授業の最終目標が明確になっている授業 理由：授業の最終目標が明確になっている授業 授業の最初の授業で目的を明確にしてほしい、その目的を遂げるための授業形態にしてほしい(一貫性をもってほしい) 理由：目的をもって授業に臨んだほうがモチベーションが持続するため
自ら考える	・グループワークのグループ編成は、同じことに興味を持っており、その思いなどを共有できる人たちで形成できるような授業 理由：ただのランダムでのグループ編成だと、モチベーションや興味が異なる人たちで集まってしまいうこともあったため、グループワークがスムーズに進まないから。 ・日常生活で活かせることを学べる授業(ex食品生活、歯の予防等) 理由：大学生は生活習慣などが乱れがちのため。 ・学生参加型やアウトプットの時間がある授業(先生の話を聞いた上で学生が感じたことのアピールなど適宜入れ) 理由：話を聞くだけの授業だと考える力や自ら言語化する力がつかないから。	
自ら道をひらく	・好きなことを自由に討論できる体験型授業(ex行政について、ITについて等) 理由：自分の興味ある分野で討論することで、考える力、話す力、論理的思考力、相手に伝える力など将来ビジネスで必要なスキルが身につけられるから。 ・知識だけでなく、その知識がどこで、どのように実践できるのかも学べる実践的な(現場に行くなどの)授業 理由：やりたいことをできるようにすることが教育上で大切だと思うから。知識だけでなく、実践できないと身についていないように感じるから。	・好きなことを自由に討論できる体験型授業(ex行政について、ITについて等) 理由：自分の興味ある分野で討論することで、考える力、話す力、論理的思考力、相手に伝える力など将来ビジネスで必要なスキルが身につけられるから。
その他	・シラバスをちゃんと書くこと →記載した内容を守り、一貫した授業を行ってほしい - 理由：シラバスを見て履修科目を決めているのだから、学びたいと思っ - たことと実際の授業内容が違ってくるから。 ・テストや課題の内容に対してFBやコメントが欲しい - 理由：自分の至らなかったところを見直し復習したいから。その反省を今後に活かしたいから。 ・抽選予定でない授業は途中で抽選等にしてほしい - 理由：抽選予定でなかったもので履修希望者が多かった場合はハイフレックス等で対応してほしい。 - 理由：総合科目はそもそも履修が難しい。抽選に落ち続けてしまった場合、卒業に対する不安が募ってしまう。卒業への単位取得の計画で確実に総合科目を履修したい時もあるのに確実に履修できると安心したいから。	・シラバスをちゃんと書くこと →記載した内容を守り、一貫した授業を行ってほしい - 理由：シラバスを見て履修科目を決めているのだから、学びたいと思っ - たことと実際の授業内容が違ってくるから。 - 理由：自分の至らなかったところを見直し復習したいから。その反省を今後に活かしたいから。 ・抽選予定でない授業は途中で抽選等にしてほしい - 理由：抽選予定でなかったもので履修希望者が多かった場合はハイフレックス等で対応してほしい。 - 理由：総合科目はそもそも履修が難しい。抽選に落ち続けてしまった場合、卒業に対する不安が募ってしまう。卒業への単位取得の計画で確実に総合科目を履修したい時もあるのに確実に履修できると安心したいから。

学部提案書

(文理学部②)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・抽選の授業で、その授業を受けた理由をもとに選考を行う 理由：乗車とる人が多く、純粋にその授業を受けたいと思う人がとれないため ・授業の目的を明示する 理由：授業の目的が分からないと学生の学習意欲が低下するため ・成績評価の要素をバランスよくしてほしい 理由：例えば「試験100%」だと試験が苦手な学生の履修にハードルが上がるため ・レジュメを授業前に配布するような全体ルールを作る 理由：授業後に渡されると、板書内容が書き込みない、予習もできない。 ・学生バイト(TAなど)の質を上げる 理由：授業中にしゃべっているだけで仕事をしていないTAがいる。TAに質問がしづらいため ・宿泊を含むフィールドワークを増やす 理由：フィールドワークの内容が薄いため ・学科専門科目を学ぶ分野の幅を広げる 理由：授業内容が担当教員の専門に限定されてしまうため ・教職コース以外の人でもコース科目を履修できるようにしたい。 理由：教職コースをとっている人しか学べない授業でも興味深い授業があるから。 ・身の回りの社会とかかわりのある授業を増やす。 理由：実社会で生かせることを知ったほうが学生の学ぶ意欲が向上する。	・身の回りの社会とかかわりのある授業を増やす。
自ら考える	・将来に役に立つコミュニケーションを学びたい。 理由：複数のコミュニケーションの能力を習得したいから。 ・手書きでのレポート提出を撤廃してほしい。 理由：コピペ対策はほかにも方法があるから。 ・小テスト等をCanvasMSで開示してほしい。 理由：復習して学習効果を高めるため ・教科書を読むだけの授業を行わないでほしい 理由：学習意欲の向上につながる内容理解を寄与してないから。 ・抽選の可能性がある場合、シラバス等で事前に可能性を告知してほしい 理由：ほかの授業とのかかわりもあり、事前に準備したいから。 ・妄想を広げる授業をしてほしい。 理由：専門にとどまらず思考の可能性が広がると考えるから。 ・他学部の専門的な内容も学びたい。 理由：興味・関心をもっと広げたいから。	・教科書を読むだけの授業を行わないでほしい 理由：学習意欲の向上につながる内容理解を寄与してないから。 ・妄想を広げる授業をしてほしい。 理由：専門にとどまらず思考の可能性が広がると考えるから。

自ら道をひらく	・学外とかかわり、将来に役立つ能力の育成 理由：授業内容の学外との関わりがわかりにくいから ・ちょくちょく知識的な部分の時間や、先生の見解を話してくれる時間を増やしてほしい。 理由：教科書を音読しただけでは理解しづらいから ・先生が問いかけた質問に対して発言しやすい環境を設ける 理由：座学ばかりだとアウトプットできないから ・経営者や弁護士など実際に専門的な分野で働いてる人の話を聞く(または講義)を設けて欲しい 理由：専門的な研究者はいても、社会で働く人の話を聞く機会がないから ・大人数授業での一方向授業を改善してほしい 理由：学生が自ら授業に参加することを増やしてほしいから	・先生が問いかけた質問に対して発言しやすい環境を設ける 理由：座学ばかりだとアウトプットできないから ・経営者や弁護士など実際に専門的な分野で働いてる人の話を聞く(または講義)を設けて欲しい 理由：専門的な研究者はいても、社会で働く人の話を聞く機会がないから
その他	・成績評価の基準を最初に明示してほしい 理由：授業の目的・到達目標をはっきり知りたから ・必須ではない教科書を指定しないでほしい 理由：お金がもったいないから ・学年ごとの抽選枠を設けてほしい 理由：優先順位を学年順に設けることで意欲があっても受講できないから ・学生に対して教師の数が少ないためもっと外部講師を増やしてほしい 理由：希望する授業(内容・レベル)を受講できないから ・希望の時間割を組めるようにしてほしい 理由：空きコマ等、時間を有効に使いたいから ・グループワークで不平等が生じないようにしてほしい 理由：積極的に参加する人とそうでない人がいて不公平だから ・相互履修の際にオンデマンドや土曜授業を柔軟に取り入れて受講しやすくしてほしい 理由：物理的な理由(距離、移動、時間)によって受講のハードルが高いから	・必須ではない教科書を指定しないでほしい 理由：お金がもったいないから ・相互履修の際にオンデマンドや土曜授業を柔軟に取り入れて受講しやすくしてほしい 理由：物理的な理由(距離、移動、時間)によって受講のハードルが高いから

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmmit

学部提案書

(経済学部)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・授業で習ったことについて発表する。(3分プレゼンのようなものを想定) 理由: 他の方から新しい意見を共有して貰うことで、インプット・アウトプットを行うことができる。 →集中力の向上や、グループであれば、コミュニケーション力といった能力が高まると考えられる。 ・映像資料を扱う 理由: 印象を強く残すことができ、より記憶へと残すことが可能である。(学生の体験をもとに) →ただし、学部的にふさわしいのを見つづけるのが困難と考えられるため、語学授業で行われるのを望む。 ・企業分析を行う。 理由: グループでの話し合いを深め合う。(理想としては実際に現場で活動してる方や先生と仲の良いOB・OGの方の話を聞けるとよりよい) ・先生だけでなく外部講師を呼ぶ。 理由: 世論を知ることができたり、多角的視野思考の向上が見込める。外部との繋がりを作ることも可能になる。 ・レポートや小テスト、テストの点数や評価の公開。 理由: フィードバックが少ないことや、自分の評価がわからないと直しようがないため公開を望む。さらには、最もよい学生のレポートの開示があるとよりよいと考えている。	・授業で習ったことについて発表する。(3分プレゼンのようなものを想定) ・先生だけでなく外部講師を呼ぶ。 ・レポートや小テスト、テストの点数や評価の公開。
自ら考える	・学生の”今”を考えることのできる工夫 理由: 授業に興味を持てるような工夫。クイズや、心理テストの実施。他大学では、授業の終わりに際し、学生の望む音楽を流すのをし、出席率を向上させた事例有。 ・フィールドリサーチやフィールドワークの実施。 理由: 環境系の授業での実施を考えている。写真だけでの説明が多く、あまり理解することができない場合もあるため、課題形式でもよいので実際に校舎周りを訪れることでより理解を深めたい。 ・意見交換をし、アウトプットを行う。 理由: 一方的な授業が多いため、多角的な面から論理的思考や解決力を身に付けることを目的とする。インプットだけの授業が多いと感じていることから、ちゃんと見ているかの不安の声が多数あった。 →学部内でのプレゼン大会やディスカッションがあるとアウトプットの場として、有効なのではないかと考えられる。ほかには、3分プレゼンの実施。140字の1文のような要領で簡単なものを想定している。	・フィールドリサーチやフィールドワークの実施。
自ら道をひらく	・自らがビジネスプランを立てプランを作る。 理由: 行う過程でビジネスプランを立てる能力だけでなく、様々な知見を得ることができ。経済学部であれば、産業経営学科があることから、ビジコンの実施は良いのではないかと考えられる。 →評価基準を設けたビジコン形式だと学生の集中力向上、思考力・思考力を伸ばすのに、非常に良いと考えられる。さらには、日本大学の特色ともいえるような、経営者が多いことから、人が集まるのではないかと。 ・アバウトな問いを与えてグループワークからレポート制作や実験を進める 理由: コミュニケーション能力の向上。思考力の向上と共に、協同し合う力を養うことを目的とする。1だけを与えられ2から全て作る経験は、早い時に行うこ	・現場の人たちとコミュニケーションを取り世論を知る

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmniT

	とは非常良いと考えられ、さらに学年を混ぜることで、柔軟性が養われる事や、何事において、良い経験・授業になると考えられる。 ・現場の人たちとコミュニケーションを取り世論を知る 理由: 教員だけでなく世の中を知るきっかけになる。さらには、外との関わりを手に入れる。大人と会話することで、何が足りないか、何をすべきかと、自己分析をするかも、補えるのではないだろうか。 ・グループワークとプレゼンといったアウトプットの実施。 理由: 社会にでるための能力を身に着けたい。エクセル等はよくあるがパワポであったり、グループでの意見のすり合わせ方などを学ぶ機会がもっとあるとよいと感じた。	
その他	・授業の途中でクイズを出したり、体験談(雑談)を話すことでモチベーションをあげる。(90分集中し続けることは、非常に難しいと感じる学生が多いという声(実際にある。)) 理由: 一定数の学生が集中力を持たずに携帯をいじってしまっている。そのため、授業を意欲させるためにクイズ等を出してほしい。授業環境がより向上し、ほかの学生も受けやすくなる。 ・授業難易度を同じにする 理由: 単位の取得のしやすさにバラつきがある。いろいろな学生に対応できるように工夫を行う。 ・学習環境の改善 理由: 少人数向け授業の実施→実践的な授業が少ないため行いたい。ただし、教員の人数の兼ね合いもあるため、よい方法を模索したい。 ディスプレイを増やす。 →モニターが角度から見えずらいこともあるため。 グループワークの機会を増やす。→コミュニケーション力であったり、論理的思考を補うのにもっとも良いといった意見がでした。 シラバス通りに実施する→シラバスを見て授業をとっている人もいるため、難易度を同じにする	

学部提案書

(商学部①)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・授業内で小テストを設ける 理由: 授業内で学んだ知識が定着する。自分がどの部分を理解していて、理解できていないのかを理解することによって、より効率的な学習を行うことができるから 例: 授業内で小テスト行う。演習用の課題を出す →レポートやテストなどの課題を解説する 理由: 課題に対してのフィードバックがあることで、課題に対しての理解が深まる →専門的な学びの場を増やす 理由: より学びたいという意欲がある学生に対して、専門知識を学べるような学習機会を設ける。学習意欲に相当するような柔軟な学びの場の提供	・課題やテストを評価して返却してほしい 理由: 課題やテストのフィードバックがあることで、自分の今後の学習に活かすことが出来るため
自ら考える	・授業のクラスを習熟度別に分ける 理由: 個々のレベルに合った授業や課題を提供することが可能になり、より深みのある学習を行うことが可能になるから ・授業内容にニュースや新聞の内容を取り入れる 理由: 実社会とリンクした内容を授業に取り込むことで、よりホットな問題について触れることもできるし、学生が興味関心を引くような授業を展開できるから 例: 授業の中でニュースやドラマ、新聞の切り抜きなどの映像・紙媒体での資料提供 →レポート課題を増やす 理由: 物事を深く考える力が身につく。理論的な考察力。授業で行った内容の復習の機会にもつながる。授業にしっかりと参加した学生が正当に評価を受けることが可能になる	
自ら道をひらく	・知識をアウトプットする機会を設ける 理由: グループ活動やフィールドワーク、ディスカッションなどの活動を行うことによって、学生が授業の内容について話すことが可能になり、学習内容の定着が可能になるから →実践して学ぶ時間が欲しい 理由: 学校外での活動の機会を設けることで、より授業内容を実践的に演習することが可能になるから。社会に触れる経験は学生自身の学習に対するモチベーションをあげるのにもつながる 例: 商店街に行く、企業見学など	・授業で学んだ知識をアウトプットする機会を設けてほしい 理由: ただ学んでいるだけでは、自分たちが学んでいる内容が実際のどのように社会に活用できているのかを知ることで出ていないから
その他	・授業での評価方法を統一してほしい(特に必修授業) 理由: 同じ内容なのに評価方法が異なっていると、学生が不公平に感じる。教職員も先生側の不満に対応するのが大変 ・学生の集中力を持続させるために、授業内に休憩時間を設けてほしい 理由: 来年から授業時間が105分になるため、より集中して授業に取り組むための方法を考えることが必要であると考えた。90分授業でも集中してない学生が多く、真面目に授業に参加したいと考えている学生が不公平だと感じることが多い。 →シラバスの表示方法を増やしてほしい 理由: ゼミ紹介のように簡単に授業概要を見れるような仕組み・サイトなどを用意する	・授業の評価方法を統一し理由: 必修授業をはじめとして、授業内容が同じなのに先生によって評価方法が異なっていると不公平だと感じる異性といがため

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmniT

学部提案書

(商学部②)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・実習や実地研修がもっとあるといいと思う。 理由: 理論と実践の統合を図るため。 →聞くだけになってしまっている必修の授業にグループワーク・プレゼン等を導入する。 理由: 学生の自発的な授業への参加を促すため。 ・コース模断の科目を増やす 理由: 学生の選択肢を増やすため。 ・ケース分析等を伴う発表の授業において多様な視点からの分析をできるようにしてほしい。 理由: 学んできた多様な理論を活用し学習効果を高めるため。	
自ら考える	・学生の理解度を返り上げられるような授業形態の実施 理由: 学生の学習効果、意欲を高めるため。 ・同学部他学科/他学部と協力して一つのプロジェクトを進めるような講義 理由: 足りない視点を補い合い、多角的な視点、知識を深める。 ・プレゼン等をする授業で発表した後に模範解答を示してほしい。 理由: 発表して終わりという形式が多く、理解が深められないため。 ・キャンパス周辺を活性化させる計画をグループで立てるような講義。 理由: 理論と実践の統合を促すため。	
自ら道をひらく	・キャリアにかかわるような授業(就活についての周辺知識やインターン)を必修で学べるようにしてほしい。 理由: 1・2年の時点で就活について触れる機会が少ない現状を改善するため。 ・想像力、アイデア力を鍛えるような授業を増やしてほしい。 理由: 0→1を生み出すような力を身に着ける機会を増やすため。	
その他	・自主創造の基礎の内容を統一 理由: 教員の負担軽減、教員によって内容が違いすぎるため、学習内容、効果にも差が出てしまっているため。	

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmniT

学部提案書

(芸術学部①)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・履修期間中の第一週の授業を全員視聴可能なオンデマンドにして欲しい →受けた授業がなかった時にちからが受講出来ない可能性があるから ・他学部の授業を動画等で視聴可能にして欲しい →様々な学部の専門知識をつけて芸術領域を広げることに役立てたいため ・他学科と協力できる授業を増やして欲しい →8つの学科が1つのキャンパスに集まっているという特色を最大限に生かすために、1つの芸術を作り上げる授業をしたいから	
自ら考える	・芸術を通して制作したものをどう社会的に昇華するか学ぶ授業 →自分の学んでいることが何に活かせるかを知らりたいため →どう社会ビジネスに活かせるかを知らりたいため ・各学科プロの方がコマずつ講義する →オムニバス授業の有無が学科によって差がある ・一年時の必修でグループワークを増やしてほしい →人脈を増やしコミュニケーション能力を高める機会が欲しい ・芸術作品を制作するうえで業界の一般的な制作手順を教えてください →制作の幅が狭まることは理解したうえでそれがいいとはじめの一步が踏み出せないため	
自ら道をひらく	・最近のニュースなどを取り入れた現代との関りがわかりやすい授業 →今の授業大勢だと現代とどの様な関りが在るか分からないため ・遠方に取材できるような学外へ機材を持ち出していいような授業 →機材を外へ持ち出せると取材の幅が広がるため ・映画産業、フィルムコミッション、まちづくりなどと関連して学べる授業 →自分の専門分野以外で関連することを学ぶことで専門にしていることに深みが出るから	
その他	・休暇期間にエレベーターが止まることについて →集中授業を受けている際にエレベーターが止まっていると機材運搬に悪影響を及ぼすため	タグなどをつけたらどんな授業なのかを可視化する →時間割作成サイト等で授業内容を検索可能にする →やりたいことにつながる他学部の授業を見つけやすくするため

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmniT

学部提案書

(芸術学部②)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・もっとオープンに情報を開く →選ばれた人しか先生から声をかけられない。先生と個人のつながりが多いので機会をもっと増やす ・日芸生だけの日芸オープンキャンパス →高校生向けは多いが、在学生が日芸のことを知る機会が少ない ・他学科の体験ができる機会などをつくる	
自ら考える	・ワークショップ形式の授業の開催 外部から講師を呼んで「香りと音楽・美術etc」などの実践形式の授業を増やす	
自ら道をひらく	・他学部や他学科と協力して授業を行う →学科内で完結してしまうことが多いので交流が少ない 経済学部などとタグを組んでどのようにマネタイズするかを学ぶなど	
その他	・とにかくいろんな学部学科との交流を増やしたい ・実践できる機会がほしい ・情報をオープンに。 の三点がポイントっぽかったです。	

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmniT

学部提案書

(国際関係学部・短大三島①)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・到達度確認テストの結果を開示してほしい。 理由：到達度確認テストから自分の不足点を知ることができる。 ・授業にオンデマンドを取り入れる、ガイダンスのオンデマンド化。 理由：遠距離通学や就活を上手に活用できるようにする。同じ曜日・時間のガイダンスを受けられることができ、ミスマッチをなくすることができるため。 ・土曜日に一回2コマを使うワークショップや研修を行う。 理由：座学だけでなく、外に出て学ぶ機会を創り出す。	
自ら考える	・映画を授業に取り入れる。 理由：学んだことを映像化されたものも取り入れてより理解を深める。 ・グループワークや意見を共有する時間を設ける 理由：自分の意見をアウトプットすることによって多様な意見や視点に触れる。 ・一つのテーマについて多面的な視点からの授業。答えのない問題について話し合う機会を作る。 理由：自ら考える力を養う。	
自ら道をひらく	・料理実習とテーブルマナーを授業で学びたい。 理由：アクティブラーニング。他民族の食文化を体験することによってその民族に対する理解が深まり、他民族の料理を作るのも未知なものに挑戦する力が育つ。 ・ビジネスマナーを授業でしてほしい。 理由：就活の際や社会人としての素養を教えてください、講師からも「学生からのメールはあまりマナーを守ってない」という苦情がある。 ・可能であれば、一人ひとりの個別指導。 理由：学習効果を高める。苦手なところを明確にすることができる。 ・自分で計画を立てて実行する授業。先生から複数の選択肢を与えられ、そこから選ぶ授業。 理由：取り捨て選択を通して自分の新しいことに挑戦することができる。	
その他	・開講された授業は全15回行い終える。 理由：講師の理由で途中開講を減少させる。(学生の履修に影響が出るため) ・マイクを使うなどして授業が聞こえるようにしてほしい。また、随時聞こえているか学生に確認してほしい。 理由：学生からは言いにくい場合がある。学習に支障がある ・人数制限を取り入れるなどして席を前の方へする 理由：意欲の高い学生を育てる。 ・講師にアプリなどを上手に活用してもらう。 ・先生が連絡手段を明らかにする。 理由：講師とのやり取りのハードルを下げる。 ・広い教室を作る。 理由：今だと教室の大きさと制限が掛かるから。 ・徹底的に出席確認をする。 理由：真面目に関心する学生に対しての不公平をなくするために。 ・北口校舎のPCが古い。 理由：PCが古く、起こすだけで15分前後かかって授業に支障が出る。	

学部提案書

(国際関係学部・短大三島②)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・フィールドワーク 講義型だけでなく、現場からの話を聞ける機会を充実してほしい 理由：現場を知ることにより深く学ぶため ・文理の壁を越えて幅広く学べる授業 理由：文系は問題の解決法を研究し、理系は実践方法を学ぶことが中心なので、両者が分断されている。そのため、両方を学ぶことでその問題について一貫して理解することができるため(例、単位互換制度の周知など) ・内容理解のためテスト・レポートの充実した授業 アウトプットが少ないと学びを深めるのが難しく、自分で問題設定するのが難しい授業もあるため、課題として出してほしいから。	
自ら考える	・グループワークを増やしてほしい 理由：座学だけでなく、学生間のグループワークで意見共有で考えを深める機会が欲しいため	
自ら道をひらく	・短期大学部にもインターンシップやキャリア教育の授業を展開してほしい 理由：国際関係学部にはあるが、短期大学部にはないため	
その他	・レポートなどの提出方法の選択肢を増やす 理由：紙にだけにこだわらず、デジタルでも提出(wordなど)での提出を認めてほしい ・形だけでなく、意味のあるシラバスにしてほしい 理由：シラバス内容が授業と異なるものがある。それは学生にとって不利益になるため。学部のほうから教員に向けて意味のあるシラバス作りをお願いしてほしい。	

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmniT

学部提案書 (危機管理学部)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・学生自身が企画、発案する授業を設けてほしい。 →理由：学生が授業の仕組みやシステムを知る良い経験になるから。 (どのようにカリキュラムを組むのか、どう評価するのか?) (例) 文理学部においては、「恋愛論」という授業。	・学生自身が企画、発案する授業を設けてほしい。
自ら考える	・「産学・実践・発表・フィードバック」を繰り返すような学生参加型の授業を設けてほしい。 →理由：フィードバックにより、学生が学ぶべき内容や課題が明確になるから。 ・一般の人に危機管理学とは何かを専門用語を使わずに一言で説明できるようになる授業を設けてほしい。 (例) 歯学部では、歯に関する素朴な疑問などを一般の人向けに理解できるように授業がある。	・一般の人に危機管理学(それぞれの学部・学科の学問)とは何かを専門用語を使わずに一言で説明できるように授業を設けてほしい。
自ら道をひらく	・PBL、フィールドワークを取り入れた授業を設けてほしい。 →理由：実際は3年次から始まる。集中講義があるが、履修しにくいから。情報提供の遅さや説明会参加必須などの複雑さ面倒さきなど。 (例) フィールドワークのイメージをつかむために、三軒茶屋周辺などで無黒なフィールドワークを行う。「フィールドワーク」(仮称)	
その他	・成績評価方法の説明を徹底する。 →理由：実際にはシラバスの評価方法と異なる場合があり、学生向けにしっかりと明確に説明する必要があると思うから。 ・授業時に抜粋版レジュメ内容の意図を説明する。 →理由：全体版のレジュメを配布されたら、買って満足し、授業を受けない学生が多く見受けられるため。 レジュメのみで完結するような授業は授業とは言えない。 授業時に活用できる工夫された教材を配布する。 ・シラバスへの記載事項を守るように徹底する。 →理由：大幅なシラバスの変更をする授業があるため。	・シラバスへの記載事項を守るように徹底する。

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmiT

学部提案書 (スポーツ科学部)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・板書をしながら授業を進めていく 理由：板書することで、ノートを取る時間や考える時間が取れるため ・レポートを書くことで頭がインプットしやすくなるから ・レポートの添削や課題の返却をしてほしい 理由：自分の課題が可視化できないから	・板書をしながら授業を進めていく 理由：板書することで、ノートを取る時間や考える時間が取れるため ・レポートの添削や課題の返却をしてほしい 理由：自分の課題が可視化できないから
自ら考える	・AllEnglishの授業 理由：グローバル化に対応するため 実践的な英語を学ぶ(スポーツに特化した)スポーツ実技をしながら英語や多言語でコミュニケーションを取る ・既存のトレーニング方法論にとらわれず、新たな方法論を導き出す 理由：学生達自らが課題を克服する力を身に着けることができるから ・学生たちがグループディスカッションのテーマを設定し、授業を作る 理由：学生達が受け身にならず授業に参加できる グループディスカッションが単調になるのを防ぐため	・AllEnglishの授業 理由：グローバル化に対応するため 実践的な英語を学ぶ(スポーツに特化した)スポーツ実技をしながら英語や多言語でコミュニケーションを取る ・既存のトレーニング方法論にとらわれず、新たな方法論を導き出す 理由：学生達自らが課題を克服する力を身に着けることができるから ・学生たちがグループディスカッションのテーマを設定し、授業を作る 理由：学生達が受け身にならず授業に参加できる グループディスカッションが単調になるのを防ぐため
自ら道をひらく	・多言語を用いてスポーツを実践する 理由：スポーツのグローバル化に対応するため ・実践現場に行き体験する授業(スポーツ現場や企業など) 理由：自分の将来を創造できるから 理由：自分の将来を創造できるから 実践現場に行くことで、得られる学びがあるから ・アクティブラーニングを積極的に取り入れる 理由：座学が多く、アウトプットの機会が少ないから 様々な意見や価値観の共有により多種多様な学びを得ることができるから コミュニケーション能力やチームワークが身につくため	・多言語を用いてスポーツを実践する 理由：スポーツのグローバル化に対応するため ・実践現場に行き体験する授業(スポーツ現場や企業など) 理由：自分の将来を創造できるから 理由：自分の将来を創造できるから 実践現場に行くことで、得られる学びがあるから ・アクティブラーニングを積極的に取り入れる 理由：座学が多く、アウトプットの機会が少ないから 様々な意見や価値観の共有により多種多様な学びを得ることができるから コミュニケーション能力やチームワークが身につくため

その他	・学部を超えた横断的な授業を展開する 理由：同じキャンパスに2学部あるメリットを活かしたいから ・実習の時間を確保する 理由：余談の時間が多く実習の時間が短くなることが多いため ・学部を超えた横断的な授業を展開する 理由：同じキャンパスに2学部あるメリットを活かしたいから ・実習の時間を確保する 理由：余談の時間が多く実習の時間が短くなることが多いため
-----	--

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmiT

学部提案書 (理工学部①)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・社会の身近な問題やニュースと学問をつなげる授業。 理由：自分の学んだことが社会でどう活かせるか知するため、世界や社会の現状を知るため、身近なものと結び付けて理解しやすくするため。 ・過去の授業動画の配信 理由：予習復習がしやすくなる	・社会の身近な問題やニュースと学問をつなげる授業。 理由：自分の学んだことが社会でどう活かせるか知するため、世界や社会の現状を知るため、身近なものと結び付けて理解しやすくするため。 ・過去の授業動画の配信 理由：予習復習がしやすくなる
自ら考える	・提出物のフィードバックをする 理由：学生の理解度がわかる。どこがいけなかったのか復習し、どこをよくしたらいいのか解決策を明確化するため。評価の可視化ができる。 ・他学部や他学科と協同で一つの課題に取り組む講義 理由：多角的視点、批判的思考力をえられる。より応用的になることで、深い学びに繋がるから。 ・答案返却をする 理由：記憶に定着するため、復習をするため	・提出物のフィードバックをする 理由：学生の理解度がわかる。評価の可視化ができる。 ・他学部や他学科と協同で一つの課題に取り組む講義 理由：多角的視点、批判的思考力をえられる。より応用的になることで、深い学びに繋がるから。 ・答案返却をする 理由：記憶に定着するため、復習をするため
自ら道をひらく	・職場体験や現場の人とコミュニケーションをして、現場を知る授業 理由：自分が社会に出た時のイメージをつかみやすくするため、将来を想像しやすくするため。実践的に学べるから	・職場体験や現場の人とコミュニケーションをして、現場を知る授業 理由：自分が社会に出た時のイメージをつかみやすくするため、将来を想像しやすくするため。実践的に学べるから
その他	・時間厳守で講義室に来ていただきたい 理由：始まるのが遅くなる分、板書が遅くなってしまい、理解が追いつかなくなる時があるから。 ・一番最初の講義でマイクテスト 理由：声が聞こえないと学びにつながらないから ・選択科目の抽選方法をかえる(エントリー式にする。GPAで決めるなど) 理由：やる気がある人、受けたい人が受けれる授業にするため	・時間厳守で講義室に来ていただきたい 理由：始まるのが遅くなる分、板書が遅くなってしまい、理解が追いつかなくなる時があるから。 ・一番最初の講義でマイクテスト 理由：声が聞こえないと学びにつながらないから ・選択科目の抽選方法をかえる(エントリー式にする。GPAで決めるなど) 理由：やる気がある人、受けたい人が受けれる授業にするため

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmiT

学部提案書

(理工学部②)

	学部に望む授業	全学部に關わる項目
自ら学ぶ	・提出した課題に対してフィードバックがある授業。成績の発表を早くしてほしい理由：自己評価、振り返りができるようにしたい。成績発表を早くすることで、長期休みで反省、振り返りをしたい ・オンラインツール等を活用して、他学部の授業を学ぶ授業理由：他学部の授業を学びたい（総合大学である日大の学部を活かして） ・生成AI技術などデータサイエンスを学ぶ授業基礎から学んでリテラシーをつける理由：ChatGPTやCopilotなどを正しく、賢く利用するために必要な知識を学びたいから ・成績基準の明確化（割合ではなく詳しい評価点）や基準を上げてほしい理由：レポート返却されてもどこが悪かったかわからない、普通に難しくなくてわからない ・授業時間の短縮化理由：集中力や質を上げるため ・他学部、他学科対抗で競い合うような授業例：スポーツ大会、○○コンテスト ・授業前に資料を配布する理由：資料にメモを取りたい（先生的には後に配布したいそうです）	
自ら考える	・学生同士が主体となって議論を行ったり、アクティブラーニングを行う授業（教員が一方的に説明するだけではないもの）理由：学生が意欲的に授業に取り組むことができる ・毎年、テスト内容を変えて暗記型のテストではなく、自ら考えられる授業理由：ただの暗記ではなく、自ら考える力を養うため ・海外や異分野の考え方、文化を学ぶ授業理由：自らの視野や知見を広げるため	
自ら道をひらく	・実際の現場に行ったり、より実践的でリアルを学べる授業理由：そのほうが効果的かつ、実践的に身に付けられるから ・他分野の最新技術を学んで活用する授業例：3Dプリンター理由：アナログな表現方法や技術が多いため（未来構想工房のみではなく、「学部全体」で誰でも使えるもの） ・先生が（レジュメなし、テストなしのような）チョーク1本で行う授業理由：普通じゃなくて斬新で興味がわくから	
その他	・履修登録システムのアップデートをする例：重要な授業や必修ではないけど「研究室配属で有利」などをわかりやすく表示する理由：重要な授業の見落としを防ぐため ・専門科目を1年次など低学年の早いうちに学べるような授業カリキュラムやもう少し学生が大学に通う頻度について考慮した科目配置曜日がばらばらだと毎日通うことになるので、同じ曜日にまとめて履修できるようにしてほしい理由：少しでも早く専門的な知識を学ぶことで研究室配属や就活に役立てる	

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmniT

学部提案書

(短大船橋①)

	学部に望む授業	全学部に關わる項目
自ら学ぶ	・倫理的なことと学んだことを体験できる授業→現場に実際に行って体験することでわかることがあるため。 ・授業中に問題を解く時間を設ける。→先生が、学生が解き終わる前に黒板で説明し始めてしまつて、ついていけなから。 ・2つの班に分かれてディスカッションをし、説明しあう→知識を高め、説明する力をつけるため。 ・教室の前に来るように指示する。→積極的な授業を受けてもらうため。 ・今学んでいることの時代背景を学ぶ。→昔と今を知ることで、授業の全体像をつかむことができるため。	・2つの班に分かれてディスカッションをし、説明しあう→知識を高め、説明する力をつけるため。 ・教室の前に来るように支持する。→積極的に授業を受けてもらうため。 ・今学んでいることの時代背景を学ぶ。→昔と今を知ることで、授業の全体像をつかむことができるため。
自ら考える	・学生に考える時間を設けたり、発表機会を作ったりする。→学生側が説明する力をつけることができる。 ・学生主体のディスカッションをやるか、オンデマンドにする。→先生の負担を減らして、学生が自ら考えて意見をする場を設ける。 ・自習の時間を減らす。→自習は授業の時間外でもできるから。 ・テスト終わりに解説をしてほしい。 →フィードバックが欲しいため。 ・実際に現場に行ったり、企業に自分の意見や提案できる授業をつくる。→自分の意見を他の人に伝える力をつけたり、学生のうちに現場を知りたいから。	・学生に考える時間を設けたり、発表機会を作ったりする。→学生側が説明する力をつけることができる。 ・テスト終わりに解説をしてほしい。 →フィードバックが欲しいため。
自ら道をひらく	・フィールドワークをする授業を設ける。→現場を知ることで学びがあると考えられるから。 ・インターンシップをする授業を設ける。→将来働く雰囲気や企業理解を深められるため。 ・学生が教員役を行う授業を設ける。→人に教えることで自学生自身の理解を深めることができるため。 ・買った教科書を使うような授業形態をとる。→買った教科書を使わない先生がいて、勉強の仕方がわからないため。 ・研究授業を行う。→学生に向けて授業ではなく、先生本意の授業をする先生がいるため。	・インターンシップをする授業を設ける。→将来働く雰囲気や企業理解を深められるため。
その他	・学生がこなせる範囲で課題を出す。→短気は時間がありすぎないので、すべての課題に力を入れようとする、時間が足りないため。 ・授業内でやったもののみで課題を出す→説明もなく課題が出されることがあり、自分で学習しなければならない。 ・レポートやテストの評価点を開示する。→最終の成績開示まで、どのような評価をされているかわからないため。 ・消音や声の大きさを聞き取りやすくする。ピンマイクより手持ちマイクにしてもらう。 →聞き取りづらいため。 ・シラバスの内容を見直す。→シラバスと実際の授業があていないため。 →シラバスと実際の授業があていないため。	・レポートやテストの評価点を開示する。→最終の成績開示まで、どのような評価をされているかわからないため。 ・消音や声の大きさを聞き取りやすくする。手持ちマイクにしてもらう。 →聞き取りづらいため。 ・シラバスの内容を見直す。→シラバスと実際の授業があていないため。

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmniT

学部提案書

(生産工学部①)

	学部に望む授業	全学部に關わる項目
自ら学ぶ	・外部講師による授業→教員以外に教えてもらうことにより、さらに視野を広げるため ・その授業で初めて扱うアプリケーションやプログラミング言語はあらかじめ使い方の資料を配布してほしい →事前に告知なく、新しいアプリケーションやプログラミング言語がでると準備ができず授業についていけないため ・授業動画をアーカイブに残す →一度で復習するため ・その科目が苦手な人をフォローする体制 →同じ授業を履修していても、人によって習熟度が異なるため ・授業を受ける上で必要になる知識を教材として配布する（単位はなく、学生が自由なタイミングで見れるもの） →足りない知識を学生がおぎなえるようにするため ・学生にとって良いフィードバック方法を教員間で共有する →学生にとってより良いフィードバックを探すため	・学部・学科をこえて学生間で質問・意見交換などが行えるネット掲示板のようなものがほしい →学部を超えたつながりや、新しい知識の獲得等のため ・授業を受ける上で必要になる知識を教材として配布する（単位はなく、学生が自由なタイミングで見れるもの） →足りない知識を学生がおぎなえるようにするため ・学生にとって良いフィードバック方法を教員間で共有する →学生にとってより良いフィードバックを探すため
自ら考える	・学生自身に興味をもたせる授業設計→授業によっては興味のない状態から履修するため、授業内で学生に興味をもたせ、学習意欲を増すため ・自主性を重視しつつ、フィールドワーク等を行う →自身でフィールドワークの準備をすることで社会経験になる、加えてフィールドワークが授業への刺激になる ・実世界とのかかわりを示しながら授業をする →実世界とのかかわりがあることで学生のモチベーションになるため（学部3、4年生になるとインターンシップや研究室に配属されるため実世界とのかかわりがわかるが1、2年生では気づききかけが少ない） ・現在の社会問題の根本を考える／フィールドワークを行うことで自らの問題点や計画の問題点に気づけるような授業をする →授業で扱う社会問題は過去のものが多く、リアルタイムで進んでいる社会問題を取り扱うことで授業のモチベーションを高められる ・問題がどのように進行するか予想する力を身に付けられるため →ユーザーのことを考慮したものづくり →ものづくりにおいて、ユーザー視点が入ることで思考の深みが増すため（学部3、4年ではインターンシップで気づく機会が多いが1、2年は少ない） ・早い段階（学部1、2年）からのものづくり（実習）の経験 →早い段階でのものづくりの企画、設計等を経験することで、ものづくりに必要となる知識が把握でき授業に対するモチベーションが向上するため	・学生自身に興味をもたせる授業設計 →授業によっては興味のない状態から履修するため、授業内で学生に興味をもたせ、学習意欲を増すため

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmniT

学部提案書

(生産工学部②)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・授業内の学生間のコミュニケーションを取れる時間を増やす。 理由：授業の内容を深めるにあたり、ほかの学生が何をどのように感じているのか意見交換をする時間を設けることにより、内容がより一層理解できるようになるため。 ・シラバスの内容に沿った授業を行ってほしい。 理由：シラバスに記載した教科書の不使用や授業計画の脱線は学生の勉強計画に支障をきたすため。また、予習が行いにくくなるため。	
自ら考える	・実験・授業内容は先生が異なっても評価方法を統一する。 理由：学生間の評価、単位に不平等が生じるため。 ・授業の内容をオンデマンド等で復習しやすい環境を整える。 理由：こうすることで学習にレベル差がある学生においても成長しやすい環境となる。	
自ら道をひらく	・毎回の講義でグループワークを行う。 理由：授業内容の理解を深めるため。 ・実際の企業と関わる授業を行う。 理由：大学内の狭い世界で考えるのではなく、より広い世界で物事を考えることで、授業で得た知識を活用するため。	・生産工学部は技術をメインにしているので、文系の学部で同じようなことを学んでいる他学部との交流がしたい。
その他	・カラーコピーをするために授業毎に学部にコピーの対応をしてほしい。 理由：カラー印刷で提出を求めることにに対し、コピー環境が大学側で準備できていないため。 ・テストや再試験などの代替課題の準備を行ってほしい。 理由：正当な理由で休んだ授業の救済措置が全くない授業があるため。 ・PDF等で授業資料の配布を行う。 理由：スライドの速度にノート作成がついていけず、生徒間で授業内容の定着度に差が生じるため。 ・学生間の上下のかわりを持つ授業。 理由：授業や進路などで相談できる相手をもく作りたいため。	

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmniT

学部提案書

(工学部)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・ロハス工学と電気電子の内容をからめる 理由：工学部ならではの学習分野なので取り入れていきたいから。 ・しっかりとした評価基準の一致をしてほしい 理由：ちゃんと勉強をして頑張っている学生が損しないようにしてほしいから。 ・評価した課題 テスト内容の返却と解説 理由：ちゃんと知識として身につけているか、間違った情報を見ていないかチェックしたいから。 ・ノートの取り方を1年次にきちんと教えてほしい 理由：専門性の高い授業を受け入れていくうえで、効率の良い考え方、学び方をしていきたいから。 ・海外と国内の現状と課題を理解し、改善手だてを考える。 理由：日本と海外の考え方の違い、多様性を受け入れつつ、改善すれば、留学生にも学び易くなると思ったから。日本と海外の発電方法を例に、先進国などの技術などを学び自国に取り入れてさらなる発展を成し遂げたいから。 ・土物の歴史について学ぶ 理由：航空宇宙実験を学びたい。 ・人工知能など最先端な授業について学びたい ・エネルギー応用学、日産、SF小説論、科学製図を実際に見に行きたい ・ちゃんとマイクを持って欲しい。 理由：教員の発言をしっかりと聞き取れないと授業にならないため。 ・海外で使える英語の授業をやしてほしい 理由：技術英語と日常会話では異なる部分があると思うから。 ・答案用紙を授業内で一時的に返却し、授業内で回収する方式を導入してほしい。 理由：誤答箇所を把握したいが、答案を返却すると、情報が漏洩すると恐れられたため、授業内で情報が漏洩しない方法を取り入れてほしい。 ・グループワークやディスカッションを取り入れる 理由：アウトプットでより知識を定着させたいから。 ・ウェアラブル的な製品の研究のために人の体の構造を学ぶ。 理由：電気分野であれば電気が人に及ぼす影響を学べば未然に危険を防げるから。	・しっかりと評価基準の一致をしてほしい ・評価した課題、テスト内容の返却と解説 ・海外と国内の現状と課題を理解し、改善の手だてを考える。 ・最先端な事例について学ぶ授業 ・学生に教える授業のやり方の確立（マイクをちゃんと持つなど） ・学部で専門分野に適用する英語を学ぶようにしてほしい ・グループワーク&ディスカッションを取り入れてほしい
自ら考える	・聞くだけではなく、アウトプットする場が欲しい。 ・演習時間を設ける ・わからないことをTAや教員に聞けるようにしてほしい 理由：聞きやすいような環境ではない。先生方が別室に行ってしまう。 ・ポータルサイトやGoogle Classroomでの点数公開を義務化 ・学生自身が興味のある分野を他の学生や先生方にプレゼンを行う授業 ・学生が行いたいことに対する話し合いや、企画書・計画書の書き方を学ぶ授業がほしい ・家を建てる授業（住宅設計）創造しながら自分だけの家を考える授業がほしい ・映画を見て流行や社会、先端技術、歴史を学べる授業 ・世界のジェンダーについて建築に生かせる授業が欲しい ・（生命と電気をからめるなど）学科横断的な授業を行ってほしい 理由：他学科の学びを生かすことで視野が広がると考える	・小テストやアクティブラーニングなどアウトプットが出来る場面が欲しい ・聞きたいときに簡単に聞くことができるようにしてほしい

学部提案書

(医学部附属看護専門学校)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・企業実習やインターンに行くことで単位取得ができることを周知する。 理由：就職活動の活性化につながる ・グループワークや学生への問いかけ、学生に考えさせる時間を設ける 理由：コミュニケーション能力、協働力、挑戦力、省察力の向上につながる ・授業の際にノートを用意させる／準備する ・シミュレーションを行う授業（ものづくり・作る人・使う人それぞれの気持ちを考えて、学ぶ） 理由：作る責任と使う責任を学ぶため ・学生自身の興味がある内容を探究できる授業	・インターンに行く機会構築
その他	・学生と教員の間で連絡方法がたくさんありすぎて連絡ができないことがある ・次の授業が離れた場所にある場合、授業が早く終わった時に早く帰れる許可制度を設けてほしい	・担当教員との連絡手段に明して明確にする ・広いキャンパス内における移動時間の配慮

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmniT

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・自分が試験やレポートを受けた。提出した際に、解答用紙やレポートの適切なフィードバックがあり、今後の学習に活かせる授業 理由：今後の学習に活かしたいため ・設備の改善 理由：教員の話や資料、講義の内容が学生に明確に伝わるようにするため。	・自分が試験やレポートを受けた。提出した際に、解答用紙やレポートの適切なフィードバックがあるように全学部で統一して欲しい。 理由：今後の学習に活かしたいため
自ら考える	・教員からの一方通行の授業ではなく、教員と学生が対話できる授業。 理由：学生の意見を一方的に否定するのではなく、同意したうえで訂正して欲しいから ・グループワークや実習をする授業を増やすグループワークに必要な知識を身につける授業が事前にあること 理由：必要最小限の知識を持ってグループワーク等の活動を行いたいため。 ・授業内で終わる必要な知識を、整理した資料を用意して行う授業 理由：学生が学ぶことを明確にして学生に伝えてほしいため ・ジェンダー平等を学ぶ授業 理由：先入観にとらわれずに、公平な視点を持つことが重要なことであるから	・ジェンダー平等を学ぶ授業 理由：先入観にとらわれずに、公平な視点を持つことが重要なことであるから
自ら道をひらく	・その道の専門家を招聘して行う授業 理由：新しい学習や知識に触れることで今後に活かしていけるから	・その道の専門家を招聘して行う授業 理由：新しい学習や知識に触れることで今後に活かしていけるから
その他		

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmniT

学部提案書

(歯学部)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	- 臨床実験で小さなことに気が付く。 - 一座学で頭の中だけで考えたり想像したりするよりも実際の現場で実感し今後に生かすことができるため - 要領をよく学ぶ。 - 歯学部は科目が多い。新カリキュラムも始まったため自分に大きな負担にならないように勉強法を工夫する。 - 歯科以外にも興味を持つ分野を作る。 - 将来働いたり開業したときにお金回りを勉強したりする。 - 時事問題を絡めた授業や社会福祉を学ぶ。 - 歯科以外の分野から多角的な思考をはぐくむため。 - アクティブラーニング - 自分から積極的に他人に教えたり、ディスカッションをして他人と自分の考え方を理解、共有したりする。	
自ら考える	- 現役の歯科医師の方を呼んで、歯科医師としての心構えや行動について学ぶ授業 - 歯科医師になるうえで大切なことを学ぶから。 - 制限時間を設けて授業のスピード良く進める。 - 一集中して授業を受けられるようにするため。 - 物事をまる覚えではなく、原理や機構について理解する授業にする。 - 理解を深めるため。 - 出席するとさせる意識を植え付ける授業 - 授業を集中して受けられるようにするため。 - 学生同士の教えあいができる授業 - 一教えあうことで最も勉強になるから。	
自ら道をひらく	- 先生に質問しやすい授業 - 先生と仲良く、気軽に質問できる環境を作ること、授業での理解力を身に付けることができる。 - システムを単純化する →学生側も先生もしっかり理解していないため - 研究を実施する →院内実習でこれまでの実習に加えてその中で興味の出た科でさらに実習できるようにしてほしい →どの科にも2週間しか実習できないと、将来、自分の進みたい方向を考えにくい	
その他	- 配布される資料にダイジェスト版ではなく全体の完全版にする。 - 教員の意思を明確にする（特に英語） - パソコンシステムをマニュアル化し、問題が生じた際に誰しもが対応できるようにする。 - 教科書など購入器材を有効利用する。 - 出席をとるシステムを増強し、時間短縮、休み時間をきちんととれるようにする。	

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmmit

学部提案書

(松戸歯学部①)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	- テストの結果、レポートの評価を見える化する - 理由：復習に生かし理解を深めたいから →院内実習でやるべきこと、やらなくても良いことを明確にする - 理由：体力が削れて自学習に支障が出るから →授業外で学びあえるグループを作りたい - 理由：勉強仲間を分け隔てなく作れるようにするため	- テストの結果、レポートの評価を見える化する - 理由：復習に生かし理解を深めたいから
自ら考える	- 民法について学ぶ授業 - 理由：実際に医療ミスなどで裁判につながるケースがあるので - 起訴問題について触れておく必要がある →6年生のような改変問題を早いうちから対策、実施する - 理由：国試に対応するため →内容の被らない授業をして効率化をする - 理由：複数の授業で同じ内容を触れることが多いから →エクセルに触れる授業を増やしたい - 理由：デジタル化に対応する必要があったり、エクセルを使う授業で違いがないことがあるため	
自ら道をひらく	- 開業に役立つ授業の実施 - 理由：開業時に知識を持っておくことによって適切な経営につながる →知識ではない意識的なこと（主観主義の様な）を伝える授業の実施 - 理由：哲学的な意識は身に定着しやすく、向上心をあげる手助けしてくれるから →わからない前提で話をしてほしい - 理由：授業の理解のため、また、授業についていきやすくなり、学習意欲の向上につながるから	
その他	- レジュメをカラーコピーする - 理由：図や組織図、症例が白黒だと見にくい →1年次のカリキュラムの変更（専門科目を増やす） - 理由：歯学を意欲の高い1年次から学ぶことで歯科医になるためのモチベーション向上につながる →試験日程の調整をし、CBTやOSCEの支障にならないようにする - 理由：平常試験中や直前にCBTやOSCEがある状況なので双方に支障が出てしまっている	

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmmit

学部提案書

(松戸歯学部②)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	「日本を考える」の授業内容を次年度からも使えるように変更する 例) 2年の統計でやるような弊害(人口減少)や高齢化による歯科への関わりなど身近な問題を扱い興味を持てるような内容 →講義+web classや紙媒体での補習プリント配布 - 理由) 学力差があり先生たちは学力が低い人に合わせるしかないで勉強できる人は困っている。そのため低い人の学力を復習することで底上げて学力を平等にして先生が授業しやすいようにする	
自ら考える	→学生間で実践者、指導者を決めてコーティングの実践をする授業 - 理由) 将来のスタッフ教育のためにもコーティングに関する授業の導入(他学部からの招待(教育学部)) →英語での授業の充実 - 理由) 患者とコミュニケーションのとれる英語(話すために英語の力を伸ばしたい) 例) All Englishの授業の導入 →座学での一方向から教える授業 例) マイクを学生に回して学生に問題を解かせるスタイルの導入	→英語での授業の充実 例) All Englishの授業の導入
自ら道をひらく	→歯科臨床早期実習 - 理由) 身だしなみが適していない学生が多く、1年生の早い段階で行くことで入院前の意識を高めるため。頭髪、服装等で厳しい指導を早期から行うことによって未来像を高めることもできる。松戸歯学部では歯科への興味を高める授業が少ないため →医学的な授業 - 理由) 歯科疾患がどのように全身の疾患とつながっているのかわかりづらいため。3年生から全身の疾患について授業を行ってほしいため。(全身の疾患に重きを置いているのは2年生のみだと感じる) →08, 06の面談 - 理由) 低学年からの実際の臨床の体験談や科目における特色を聴くことによって歯科への興味を早期からもってもらうことを目標に行いたい	→08, 06の面談
その他	→学食をフードコートにする - 理由) 学食が美味しくないという意見が多いため。複数のチェーン店を入れることによって授業中の集中力がそがれて学力が低下している学生がいるため。血崩症低下により意識が朦朧とするため。昼休みの時間が他学部と比べて取られており、また、周囲の飲食店が少ないため。長時間並ぶため。往復する時間がなくなるため。 →コンセントが少ない - 理由) iPadを使っている学生が充電できないため。授業スライドはiPadで見るため。充電が切れるとスライドが見えなくなり、内容が頭に入らなくなるため。	

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmmit

学部提案書

(生物資源科学部①)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	- 自分たちでテーマを決める授業を増やしてほしい →先生方とは異なる視点から見られるために自主創造の理念につながるため - 他学科との交流がある授業を増やしてほしい →文系学科もある様な学部が生まれていないため - 基礎的な授業も取り入れほしい →プログラムなどの授業は文系だと理系との差が激しいために基礎的な授業があったほうが良いと先生からの提案があったため。 - 動画をアーカイブしてほしい →授業の復習につながるため	
自ら考える	→答えのない授業を作してほしい →哲学のような答えのない授業を取り入れ、論理的・批判的な思考力を培うことができると思ったため - 映像授業を取り入れる →論理的な授業で感情的な映画などを取り入れることで異なるベクトルで物事をみれるため	
自ら道をひらく	→実際に働いている人に講義してほしい →今学んでいることが社会にどのような形で寄与しているかを知りたいため →グループワーク重視の講義を取り入れたい →実際の社会では様々な人とかわかり、コミュニケーションやリーダーシップが必ず必要になるためにグループワーク重視の講義を取り入れてほしい	
その他	- シラバスの申請前に内容を固める →最初の授業のガイダンスで異なる授業形態をとる - 出席の取り方の工夫 →ヒソヒソ防止につながる - 文系と理系の授業を見る →生物資源科学部だと文系学科もあるにも関わらず理系と同じプログラムの授業を受けるのは厳しい - モニターの数を増やす →一席によってスクリーンを見ることが困難な度があるためモニターやスクリーンを増設することで見やすくしてほしい。	

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmmit

学部提案書

(生物資源科学部②)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・存在するだけで使われていないクラスルームで、資料や事前・事後課題を配布してほしい 理由：予習をして目的を持って授業を受けたい 板書を写しきれないため復習にしたい ・提出後のテストや課題を返却する 理由：復習や振り返り、見直しのため	
自ら考える	・生活する上でためになる集中授業 理由：保険・AEDなど、生活の中で必要なことを学ぶ機会が欲しいから ・大学卒業後の進路のために具体的な知識を得られる授業（エントリーシートなど） 理由：はじめての就活で何もわからない人が多いので、授業として知識を得られる機会がほしいから ・授業授業でグループワークを取り入れる 理由：座学だけではない、能動的に学ぶにきるため 例：講義とグループワークを半分ずつにする	・生活する上で為になる集中講義
自ら道をひらく	・レポート課題をプレゼンする。授業を増やす。 理由：プレゼン力を上げるため。他の人の考え、調べた結果等を知れるため。 ・複数に1回の授業ベースでグループワークや問題を解く時間を作る。 理由：少しでもアウトプットの時間を作るため。	
その他	・AA制度導入 理由：気軽に相談・訪問できる関係を作る。 不安が減る。 ・1つの授業で複数の先生が同じ授業を担当する時は評価方法を統一する（最初はどう評価するかを生徒に提示） 理由：同じ授業でも先生によって単位の取りやすさに差が生じてしまうから。 ・授業の終わりをきちんとしてほしい。 理由：ギリギリに終わってしまうと、次の授業に間に合わないため。 ・classroomをきちんと使してほしい。 理由：レポート課題や復習、レジュメの資料や動画などの配信を見れるようにするため。 ・後ろの人もスライドが見えるようにしてほしい。 理由：スライドの下の方まで書く先生がいるので、広い教室だと見えなないため。	・AA制度

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmIt

学部提案書

(生物資源科学部③)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・シラバスに沿った成績評価を行う 理由：教員と学生お互い充実した授業にするため ・教員が学生の理解度を把握する 理由：学生に寄り添った授業をするため ・オンデマンドの活用 理由：1：日本大学という特色を活かし、多様な授業を学ぶため 2：同じ時間に取りたい科目と必修が重複している時にどちらも学べるようにするため ・学生に講義選択の権利を与える。受講する教員を選択できるようにする 理由：自分が本当に学びたい授業を受けられるようにするため ・同一授業でも学生のレベルをある程度統一 理由：より専門性の高い授業を受けるため ・旧新のカリキュラムでフィールドワークを継続 理由：体験型であるフィールドワークで学べる事がたくさんあるから ・授業内容の充実 理由：無駄話、多すぎる脱線がなくし、授業時間がなくなるのを防ぐため ・毎回の課題、テストのフィードバック 理由：早期に問題点を理解し、自分が学んで知識にしたものが合っているか確認、復習ができるようにするため	・逆講義の導入（学生が教える立場になる） 理由：学生が教える内容について深く学び、理解力の向上をはかるため ・理系、文系をつなぐ授業 理由：文系、理系両方の側面から理解するため ex：絵画を科学的側面から分析
自ら考える	・毎回の課題、テストのフィードバック 理由：早期に問題点を理解し、自分が学んで知識にしたものが合っているか確認、復習ができるようにするため ・インプットとアウトプットの両立 理由：基礎知識が必要なものであることは理解しているが、ある程度考えられる機会を作った授業のほうが学生も考えようとし、知識として吸収しやすいと考えられるため	・理系、文系をつなぐ授業 理由：文系、理系両方の側面から理解するため ex：絵画を科学的側面から分析
自ら道をひらく	・グループワークとしても個人個人の貢献度評価 理由：同じグループ内で貢献している人としていない人がグループとして評価されることにより、同一評価にされ、公平性が保たれないことを防ぐため ・自分の学んでいる分野のOB、OGとの関わりを増やす 理由：自分の将来を考える機会を増やすため ・将来の自分の想像につながる授業 理由：基礎知識として学んでいることが将来どう応用できるか可視化できるほうが学びとして定着しやすいと考えられるため ・グループワーク、アウトプットの訓練となる機会を増やす 理由：社会で使えるコミュニケーション能力を養い、課題に対する問題解決を協同で行えるようにするため ・グループワークや実験班などでランダムな班編成といった工夫 理由：グループワークのメンバーが固定されていることで、負担の平等が生じているため 生物資源科学部にはない授業のうち、日本大学の多様な専門家がいて環境を活かして、オンデマンドに限らず質問、学びのチャンスを増やす 理由：自分たちが学びたいことが学べるようにするため ex：解剖学、会計学	・理系、文系をつなぐ授業 理由：文系、理系両方の側面から理解するため ex：絵画を科学的側面から分析 ・日本大学の多様な専門家がいて環境を活かして、オンデマンドに限らず質問、学びのチャンスを増やす 理由：自分たちが学びたいことが学べるようにする

学部提案書

(生物資源科学部④)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・自信を持って、大学らしい、専門性のある授業が受けられる環境を作り、個々の学生を見れる十分な教員の確保 理由：その道の専門である先生に授業してもらえず、ネガティブなことを言われるのはおかしい ・重複した内容が少なく、無駄を省いたカリキュラムにし、より新しいことが学べるようにする 理由：似通った内容の授業において、教員間それぞれ授業内容の理解が不足しており、同じ話を複数聞く時間があるため ・科目名が同じである授業のうち、先生が複数いる場合テストや評価方法を統一する 理由：モチベーション、公平性を保つため ・プロジェクターやエアコンなどの設備において、細かく点検作業を行う 理由：学部の特性上、人数が多い学科は授業でプロジェクターを使う機会が多く、壊れていると講義にならないことがあり、本来学びたいことに集中できないことがあるため	・OBやOG訪問の機会を増やす 理由：自分の将来を考える機会を増やすため

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmIt

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・14回目に試験を行い、15回目にフィードバックをする。 →理由：間違えた箇所を確認する。 ・学生の成績評価を意識したシラバスの作成、システムの構築 →理由：成績の評価方法がわからない、不満があるから。	
自ら考える	・他学科と協力してプレゼン →理由：自分とは違うほかの分野の人と意見を出し合い、刺激しあえる。 ・フィールドワークの授業を増やす →理由：座学で受け身の授業だけでなく、広大なキャンパスをはじめとしたフィールドを使って学ぶことができるため。	
自ら道をひらく	・「知る一考える」有効なアプローチ方法ができる授業 →理由：座学を「知る」ことを実験や実習で「考える」にすべてつなげることが難しいから。	
その他	・テストを紙またはパソコンのどちらかでorどちらを使うのかを明確にしている →理由：目的が分らないままテストを受けているから。 ・講義の助断を見たことを確認できるシステムの構築 →理由：体調不良の学生の出席、欠席の判断が難しい。	

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmIt

学部提案書

(薬学部)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・治療法のない難易疾患についての授業をしてほしい →薬と結びつかない(治せない)疾患についても、もっと薬剤師として知っておいたほうがいい。 ・授業内容に関する全体的な要望 →先生方(できれば全員)が他の先生方の授業を見ることで参考にし、授業間での差をなくし授業全体の質を向上して欲しい →文字の大きさや、見えにくいので使わないほうがいい色(黄色)などの見やすいスライドの作り方などを、教員のほうに講座や資料で伝授し、参考にしてほしい。 ・授業の前に、その授業の概要や必要な知識などを事前プリントとしてまとめて配布してほしい(特に他学部の先生の授業の場合内容が難しいことが多いので) →理由: その授業に対して事前に準備ができるので理解度が上がる。シラバスには大雑把な授業内容しか書いていないので事前に準備ができない。	
自ら考える	・レポートの考察など具体的な内容に関して、教員側からの意見やどのようにしたらいいのかなどのフィードバックをしっかりとってほしい(希望者のみにするなどで時間を対策) ・グループワークはどのように進めたらいいのかなどのグループワークコーチングを、一年時の自主創造の授業などで取り入れてほしい。 →今後将来看護師の方などと連携をとるときに必要になってくると思うから(将来のため) →医学・歯学・薬学で医療系ワールドカフェを行いたい。 ・授業と卒業後の進路を関連付けてほしい →授業中に実際の病院や研究でどう活かされるのか、小ネタなどで入れてほしい →今まで学んできたことを活かして、治療方法などを患者さんごとに考える機会を増やしてほしい。 →早期体験(一年時から) →研究室ツアー(何をしているのか具体的に知りたい) →実習を行う	
自ら道をひらく	・関連のある科目では先生間でコミュニケーションをとり、どこまで進んでいるのかなどを共有してほしい。 - ex) 病態、薬理 ・発展的な内容も+αで教えてほしい - ex) 統計学→RのコードをLMSで提示するなど ・就職関係の講義の内容を充実させてほしい - ex) ESシートの書き方、業界研究の進め方など	
その他	・グループワークでグループ全体としての評価ではなく、加えてグループ内での点数づけを行いちゃんと予習を行ってきた人・発言した人が+αでもいいのかで報われる評価される授業を行ってほしい。	

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmmit

学部提案書

(通信教育部)

	学部に望む授業	全学部に関わる項目
自ら学ぶ	・他学科で開講されている授業を自分の学科でも受けられるようにしてほしい。また現在もし行われているようであれば、そのような時間を増やしてほしい。 →理由 専門科目など範囲の狭い分野しか学べないため、幅広い知識を深めることができないから。 ・図書館を地方の人でも使えるようにしてほしい →理由 学習に差がつくため。また平等性に欠けてしまうから。 ・企業で活躍している人の話を聞けるような授業もしくは講演会などがあってほしい。 →理由 視点の多様化のため。 ・体験型の授業が欲しい →理由 理解力の向上のため。 ・成績評価を開示してほしい →理由 復習することができない。また同じミスを繰り返してしまう可能性がある。 ・古い教材をアップデートしてほしい →理由 新しい知識を常にみにつけるため。また古い情報で学んだ内容だと社会に出た時にもなにも役に立たない可能性があるから。	
自ら考える	・学部間を超えた授業 →通信では他の学生と関わる機会が少ないため他学生の意見がわからないことが多い。生の声で他の学部の学生の意見などを聞いてみることで論理的思考力を身につくのではないかと感じたから。また、実際に学部外の学生と交流することで学習の面白さを改めて実感することができ、新たな発見も出来るから。 ・AIについて考える。 →ChatGPTに対する扱いが先生によって違うため要否を学校で統一してほしい。	
自ら道をひらく	・レポート、卒論をオンラインで提出出来るようにしてほしい。 →理由 郵便の状況に左右されている可能性があるため	海外観光地理について学ぶ授業を作ってほしい →グローバルな人材を求められる時代の中、学部関係なく全学生が身につけるべき力だと感じたから。視点を広げてみることで新たな発見があるのではないかと感じたから。
その他	・早くシラバスを出してほしい →仕事などで忙しい人が多い状況の中、短時間で履修を組むのは難しいため。	教科名が同じなら先生が違っても評価基準を同じにしてほしい。 →理由 先生によって評価を厳しくつける先生、優しくつける先生と分かれるため先生の恵加減によって成績が決まってしまうかもしれないから。